

じん けん

人権ポケットエッセイ



編集・発行 (財)大阪府人権協会
発売元 (株)解放出版社
A5判 109 ページ (総ルビ付き)
定 価 1,000 円+税
ISBN978-4-7592-6716-7 C0036

部落問題、女性問題、障がい者問題、高齢者問題、外国人問題、ハンセン病問題、子どもの人権の問題など様々な「人権」に関わっている 28 人の、日頃の活動の様子や思いをつづったエッセイ集。

人それぞれ、さまざまな角度からのアプローチで、人権問題をわかりやすく紹介。

家庭や地域、職場、学校、など身近な人権問題への「気づき」のきっかけに。

(療養所に) 入所から 10 年後、わたしは医師から完治を告げられました。社会復帰しても良いと言われました。しかし学歴社会において、学歴も社会経験も特技もない自分がいきなり社会へ出て何ができるのでしょうか。家族に相談しても「おまえのいいようにしろ」と言うだけで、積極的に勧める空気はありませんでした。

とはいえまだ 20 代でしたから・・・

P. 94 ハンセン病療養所と社会を隔てる「壁」を取り払うために

「私が生きていて、何の意味がある？ 私にどう生きていけというの？」小学 5 年生の女の子が、私に突きつけてきた言葉です。

3 歳の時に両親が離婚して以来、母親とは会っていません。父親に虐待され、今は施設で生活しています。学校でいじめられ、自分の「居場所」がないと感じている彼女は、「今すぐ 3 階のこの教室から飛び降りてもいいと思う」と言うのです・・・

P. 34 どんな人にも必ず「存在する意味」がある

いずみ識字学級に通うようになって、8 年目になります。

それまで私は「ローマ字」は知らなかったのです。電化製品の説明書が読めない。駅名、道路標識が読めない、「ローマ字が読めたらすぐ読めるようになる」という話を聞いて・・・

P. 70 識字との出会いで変わった、わたしの人生

(ドイツ・ニュルンベルクの) 街には「人権通り」があります。通りに建つ 29 本の円柱にはそれぞれ世界人権宣言が、ドイツ語と世界各国の言語で刻まれています。

市民は散歩をしながら「世界人権宣言」を学ぶことができるのです。これこそがまさに生きた人権教育だといえるのではないのでしょうか・・・

P. 22 「人権教育」を生きたものにするために

お問い合わせ

(財)大阪府人権協会

<http://www.jinken-osaka.jp>

電話 06-6568-2983

(株)解放出版社

<http://www.kaihou-s.com>

電話 06-6561-5273

じんけん 人権ポケットエッセイ

1

「関係」というキーワードで人権問題を見直す	奥田 均
21世紀を「戦争と憎悪の時代」にしないために	丹羽 雅雄
「まちづくり」から考える共生社会	野口 道彦
「人権教育」をきたものにするために	川島 慶雄
人権教育に新しい風を	平沢 安政
「いい人」をやめることから始める子育てを	市原 悟子
あなたの安心と幸せが、きっと人を幸せにする	和久 貴子
どんな人にも必ず「存在する意味」がある	北野 真由美
子どもたちに「自己肯定感」という根を	松木 正
虐待防止は「エンパワメント」から始まる	森田 ゆり
フェミニストカウンセリングを通じて見えてくるもの	宮本 由起代
教師時代に遭遇したさまざまな“暴力”を原点に	亀井 明子
かっこ悪くある勇気をもとう	石田 法子
今こそ多様な生き方を尊重し、サポートする社会づくりを	神原 文子
性の視点から検証する社会の差別構造	石元 清英
個人の独立・自立をベースに描く「家族」と「人権」	菰縁 緑
家族の愛情 プラス社会的支援で「納得のいく人生」を	大國 美智子
高齢者介護を通じて問われる人権意識	東野 正尚
識字との出会いで変わった、わたしの人生	重光 静子
高齢者の就労・いきがづくりは支援と意識改革から	安田 廣勝
障害者の生活支援への、意識改革を	石神 文子
障害者の就労意欲を生かす仕組みづくりを	大谷 強
「ちがうことこそ、ええこっちゃ」と心から言える社会に	牧口 一二
差別に立ち向かい、社会を自ら変える力を	楠 敏雄
ハンセン病療養所と社会を隔てる「壁」を取り払うために	神 美知宏
ハンセン病患者の父を誇りとして生きる	林 力
医療者として向き合うハンセン病問題	青木 美憲
回復者の言葉や生き方が社会のありようを映し出す	原田 恵子